



国際・情報

INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第16号

〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuis.ac.jp URL http://www.nuis.ac.jp



▲市街地キャンパス校舎改修完成図

21世紀は生涯教育の時代である、と言われています。本学では、広く地域社会の多様化するニーズに応じて、社会人も通学可能な専門大学院の設置や、特色を生かした公開講座、社会人教育、リカレント教育を展開し、この市街地キャンパスが、新しい情報発信基地として広く注目を集める施設となることをめざします。

この施設は、敷地が2,251㎡、建物が地下1階付10階建延11,478㎡ですが、築後40年以上経過し、現行の建築基準に適合しない6階建の旧館部を解体し、同跡地約550㎡は広場として整備し、学生の憩いの場とすると同時に市民に開かれた場とするを計画しています。活用する建物(8,646㎡)の改修と広場の整備を、10周年記念式典を予定する平成15年6月までに完了します。

10周年記念事業の一貫として市街地キャンパスの確保を計画してきましたが、去る8月28日に、旧新潟中央銀行本店跡地及び同ビルを取得しました。21世紀を迎え、社会の急激な変化がみられる中、大学に求められるニーズも大きく変様しており、これらに適切に対応し、大学の将来的な発展を図るためには、是非とも必要な施設であるとの判断によるものです。

開校後は、情報文化学部4年次生の授業、及び大学の広報や就職活動の拠点として活用します。また、同窓会を中心に、卒業生がここを拠点に幅広い活動を展開できるよう支援するための施設整備も計画しています。特に、4年次生にとっては、授業と就職活動を併行して行う時期にあり、より情報の集まる市街地に拠点を置くことで有効に活動できるものと期待しています。

2003年6月 市街地キャンパス開校

新潟国際情報大学 十周年記念事業

本学では、平成15年度に開学10年目を迎えるにあたり、次の20年へ向けに教育・研究の充実と環境の整備をすすめており、現在、10周年記念事業の一環として、市街地キャンパスの開校と情報センター棟の増築に着手しました。関係者をはじめ、本学の開学に期待と支援を得た地域社会を中心に、広く社会に対して大学の現状と将来へ向けての目標と展望を示し、新たな理解と協力、支援を求めています。

情報センター棟増築

2003年5月竣工

情報センター(3,381㎡)の増築に着工しました。増築部分は、2階建(塔屋付)で延1,646㎡、1階は図書館の増設で、2階には新たに国際センターを設置します。図書館は、開学後の蔵書数の増加による書架不足を解消し、毎年約5,000冊増加する図書在今后10年余収容可能とする約120,000冊分の書架を配備します。また新たにグループ学習室、集中学習室、語学学習室、情報発信室等の施設を充実します。

国際センターは、本学の新たな試みによる施設で、情報文化学科が中心となつて計画をすすめています。中国、韓国、ロシア、アメリカ、カナダの各提携大学別コーナーを設けて、海外留学制度の周知や留学資料展示をするほか、海外交流サロンや民族資料展示ギャラリー等を設けて、国際化教育を志向する本学の新たな施設として整備をすすめます。

(関連記事6P参照)



▲荻谷小路に面した市民開放広場

トピックス

中国 北京師範大学

本学情報文化学部との提携校である北京師範大学(提携歴史学部)が100周年を迎えました。北京師範大学は中国でも早く創設した教育機関のひとつであり、中国政府から認可された重点大学のひとつでもあります。前身は京師大学堂で、その一部である「師範館」が1902年北京師範大学となり、他の部分は北京大学となりました。12学院、24学部、21の専門研究所、25の研究センターを有し、在学生は15,000人を超え、外国人留学生も多数受け入れております。

開学100周年記念式典は9月8日(日)に、北京の人民大会堂で開催され、江沢民国家主席、朱鎔基総理をはじめとする国家の最高指導者、及び外国からの大学48校の代表を含む約6,000名が参列しました。

本学からは、武藤学長、區教授が参列すると同時に、現在北京師範大学に留学をしている本学学生17名が世界から集まっている留学生を代表して、特別に参列をしました。また、式典に先立って行われた学長フォーラムでは、代表の29校の学長が意見を発表し、本学武藤学長も大学の社会責任について述べました。

9月10日(火)には、武藤学長と區教授が北京師範大学を訪問し、留学生の授業や学内の施設を見学。その夜は鄭副学長主催の日中学生交流会に参加し、地元の学生や日本からの留学生と大いに語り合いました。



▲授業の様子



▲朱学部長(右から2番目)らと施設見学



▲学長フォーラムの様子



▲日中学生交流会



▲钟秉林学長(真ん中)

派遣留学&海外夏期セミナー

今年も、多くの学生が、派遣留学&海外夏期セミナーに参加します。



カナダコース

留学大学: アルバータ大学生涯教育部
留学期間: 8月4日(日)~9月9日(月) (5週間)
参加学生: 情報システム学科2年次以上学生 16人
奨学金: (参加者1人につき) 15万円
参加費: 約47万円



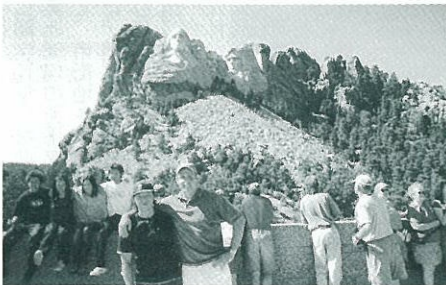
韓国コース

留学大学: 慶熙大学国際教育院
留学期間: 8月30日(金)~12月29日(日) 予定(17週間)
参加学生: 情報文化学科2年次生 9人
奨学金: (参加者1人につき) 20万円
参加費: 約50万円



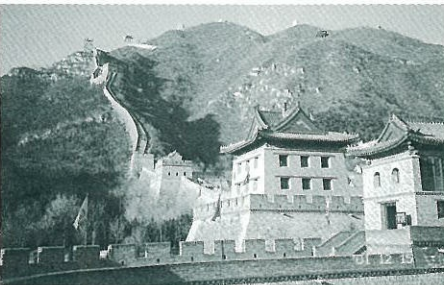
ロシアコース

留学大学: 極東国立総合大学
留学期間: 9月12日(木)~1月12日(日) 予定(17週間)
参加学生: 情報文化学科2年次生 3人
奨学金: (参加者1人につき) 20万円
参加費: 約44万円



アメリカコース

留学大学: ノースウェスト・ミズーリ州立大学教養学部
留学期間: 8月16日(金)~9月20日(金) (5週間)
参加学生: 情報文化学科2年次生 13人
奨学金: (参加者1人につき) 15万円
参加費: 約51万円



中国コース

留学大学: 北京師範大学歴史学部
留学期間: 9月3日(火)~1月7日(火) 予定(18週間)
参加学生: 情報文化学科2年次生 17人
奨学金: (参加者1人につき) 20万円
参加費: 約50万円

奨学金授与式

去る6月5日(水)、派遣留学及び海外夏期セミナー奨学金授与式が行われました。担当教員から参加学生58人の氏名が読み上げられた後、各コースの学生代表に学長から奨学金授与証書が授与されました。

お知らせ 第2回オープンキャンパス 10月5日(土) 10:30~15:30
(受付9:30~10:00)

NUIS-LIVE を体験して
～アンケートより～

また今回の 新潟中央高 女
ようなことを
してほしい。
国際情報大の授業は面白かった。男
少し分かった。日本女性職
算字に興味があり、みたいと思った。男
一風講義を体験したので良かった。日経高
大学の雰囲気を知ることができた。三条東高 男
国際情報大学についてよく知ることができました。大変興味を持ってました。寺泊高 男
情報文化、情報システムの両方の良さを知ることができた。

今日の講義は大学の特色をよく理解でき、とても役に立った。新潟南高 男
授業を通じて、将来に就くべき分野や大学に興味を持つことができた。清高 女
サホ大学と専門学校の違いが遠うと面がとの資格の高低が知りたくなった。新西高 女
サホ大学と専門学校の違いが遠うと面がとの資格の高低が知りたくなった。新西高 女

ワールドカップ・ボランティアに参加して

情報文化学科3年

学生代表 矢崎 まゆみ

去る9月5日、J.R.新潟駅さんの方から感謝状を頂くことができ、私たちの活動が認められ本当に嬉しく思います。

今振り返ると、新しいことに挑戦することは、いろいろな苦悩との戦いでもあったように思います。しかし私たちの趣旨に賛同し、新しいことに挑戦することに意欲的な多くの学生や、私たちが悩み、立ち止まったときに手を差し伸べてくれた先生方に、いざいざ勇気付けられました。

このボランティア活動は、私にさまざまなことを教えてくれました。多くの国内外の人と関わることで、言葉だけではなく国際化についても、ますます興味を持ちました。私の専攻する韓国だけでなく、英語圏の文化も知りたくなり、今夏5週間のカナダ留学に参加する機会を頂きました。

最後に、お世話になった総務課の浅野さん、副代表の西村君を始めとする学生代表のみなさん、そしてこのボランティアに参加するきっかけを与えて下さった安藤先生に大変感謝をしています。本当にありがとうございました。そして、ボランティアに参加してくださった多くの先生方をはじめ、職員の皆さん、学生の皆さん、お疲れ様でした。

感謝状

貴校は、ワールドカップ・ボランティアの活動を通じて、世界中からお越し頂いたお客様に心の中へ、新たな世界をこのボランティア活動を通じて、多くの方々に知っていただくことに貢献されました。この関係者のご協力と努力に対し、深く感謝の意を表します。

平成十四年九月五日

東日本旅客鉄道株式会社 新潟駅長 青木 邦雄



情報文化学科3年

学生副代表 西村 信人

「サッカー・ワールドカップのボランティア活動で、本大学の学生が中心になつてやろうじゃないか。」という話が私にきたのは、中国留学から帰ってきてまもなくのことだった。日本で、しかも新潟で試合が行われるのはおそろしく一生に一度のことだし、そしてなにより日本に来る外国人サポーターの手助けが少しでもできればいい。この活動に参加した。

新入生が入学してきたと同時にこの活動も本格的に動き始め、ボランティア活動員を募集するために、昼休み等ロビーでチラシ配りや宣伝をした。その甲斐あつてか、我々の予想人数を上回る144名が集まってくれた。しかし、ワールドカップ開催日が近づいていくにつかの難題が挙がってきた。

ボランティア活動の仕事は内容は新潟駅構内の案内または通訳であつた。ある程度の語学力が必要とされ、駅の構造や専門用語を知らなければできない仕事である。そこで、私達は対応マニュアルを作ったり、どこのようなことを外国人サポーターに聞かれるのかをシミュレーションをしたり、授業の空き時間を利用して個々の語学力の差を少しでも縮めようと努力した。

また、ボランティア当日のシフト・配置を決めるのも大変な作業であつた。たくさんの方の教授・事務職員の方に協力してもらつた。そのおかげで、ボランティア当日までには万全な準備ができた。私は思つてい

た。ボランティア当日を迎え、私はテレビ局の密着取材を受けながらの対応となつた。しかし、自分の配置場所に着くと、カメラなど気になっている状態ではなかつた。ものすごい数のアイルランド人、自分の配置に着くやいなや英語でまくし立てられた。この先大丈夫か？とものすごい不安にかられたが、時間が経つにつれて上手に対応できるようになつた。また、その日の反省点を書いてもらい次回につなげたので、不安は解消され、みんなも楽しんでボランティア活動をしていただけた。

新潟開催は6月15日で幕を閉せ、結果としてけが人や事件が起これず無事にボランティア活動も終了となつた。みんなそれぞれ良い思い出を作れたようだ。私もこのボランティアを通じていろいろな人と出会い、いろいろなことを学べたので、本当にやよかったと思つている。

また、J.R.の方からとても立派な感謝状を頂いた。私はこの感謝状を、本大学のボランティアに関わった全ての人の頑張りが形になったモノだと思つている。最後に、このワールドカップ・ボランティアに関わった全ての人に感謝したいと思つ

ご存知ですか？ NUISの各種制度

奨学金

本学は、修学への熱意があるにも関わらず、さまざまな事情により十分な学費が得られない学生のために、各種の奨学金制度を設けています。年々、その内容も充実し、学生が安心して何かに夢中になれる、そんなゆとり環境を提供しています。

平成14年度

学費特別給付奨学金受給者

Ⅰ種（授業料全額） 3名
Ⅱ種（授業料半額） 14名

単位互換

単位互換制度とは、大学間の相互の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図るため、大学間で協定を結び、お互いに他大学の授業を受けられるようにする制度です。

本学では、新潟大学人文学部、敬和学園大学人文学部と平成13年度に協定を締結し、14年度から実施しています。

協定の締結により、学費等は無料、学生の負担はありません。

●平成14年度派遣・受け入れ状況

新潟国際情報大学→新潟大学人文学部前期8名、後期7名

敬和学園大学人文学部→新潟国際情報大学後期2名

平成14年度表彰奨学金受給者

◎学業成績優秀部門

情報文化学科2年 古澤 恵理
情報文化学科3年 興根 絵美
情報文化学科4年 梅沢 亜矢子
情報システム学科2年 大原 恵子
情報システム学科3年 小宮 修
情報システム学科4年 西潟 瑞穂

◎課外活動部門

情報文化学科2年 幾野 貴子
○陸上競技部 第75回北信越学生陸上競技対校選手権大会女子砲丸投げ3位、第32回北信越学生陸上競技選手権大会女子砲丸投げ3位、女子砲丸投げ2位
情報システム学科2年 岡 香織
情報システム学科3年 西須 光代
○バドミントン部 春季北信越リーグ女子2部1位で1部に昇格、秋季リーグで1部2位まで躍進する原動力となった。

個人戦では全日本学生バドミントン選手権大会ダブルス出場、北信越学生バドミントン新人選手権大会ダブルス優勝

初年度ということもあり、学生への周知の時間がなかったこと、他大学に提供する科目の整理が十分でなかったことなどで、参加学生はあまり多くありませんでした。

●今後の単位互換協定の予定

新潟大学経済学部、新潟経営大学経営情報学部と新潟産業大学経済学部で協定が締結され、14年度から実施されています。本学部も15年度から参加する予定です。

また県内の高等教育機関（大学、高等専門学校、短大）での単位互換について、第1回打ち合わせ会を開催し、検討を開始しています。

このことから、将来、他大学の学びたい授業科目を自由に履修することが可能となることも考えられます。

平成14年度 学外実習受入れ企業一覧

企業名
味の素システムテクノ(株)
ケイ・システム(株)
サイバーコム(株)
JA新潟電算センター
(株)第四銀行
ツインバード工業(株)
東芝アイティソリューション(株)
(株)東陽理化学研究所
(株)名古屋三越新潟店
新潟県庁
新潟県立図書館
新潟市役所
新潟商工会議所
新潟東映ホテル
新潟日産自動車(株)
(株)新潟日报社
日産プリンス新潟販売(株)
日本海区水産研究所
(株)博進堂
(株)BSNアイネット
(株)ビット・エイ
富士通電気(株)
(株)富士通新潟システムズ
北越銀行システム部
(株)北都

(50音順)

インターンシップ

学外実習

情報システム学科では、3年次の夏期休暇を活用し「学外実習(インターンシップ)」を行っています。

この授業は官公庁・企業等で約二週間の学外実習を行うことにより、大学で学んでいる内容が実社会でどのように生かされるのかを経験し、その知見を今後の学習に役立て専門知識の向上に資することを目的としており、卒業後の職業意識の形成、責任感、自立心の向上に役立っています。

受け入れ先企業ごとに担当の専任教員を定め、企業との綿密な打ち合わせを行い、希望学生を面接し、派遣者を決めています。



● 学外実習を体験して ●

〈実習先〉JA電算センター

情報システム学科3年 安沢 俊

働くことの大変さを実感

私はJA新潟電算センターで学外学習をさせていただきました。最初はJAと名前が付いている通り、農協に関わっているのだらうというくらいのイメージしかありませんでした。初日に開校式というものがあり、すごく緊張しました。過去の報告書にも書いてあったので、挨拶を頭の中で考えていたのですが、うまく話せずに納得の行くものではありませんでした。

どのようなことをやったかと言いますと、恐らく新入社員が受けるようなガイダンスのようなことです。農協がどのようなことをやっているのか、施設内の説明、どのような業務を行っているのか。というような事を教えて頂きました。帳票の区分け作業やロータスノートを使ったグループウェアの作成、COBOLプログラミング体験、給料明細の作成、貯金通帳の作成の実習などをさせていただきました。また、新システムに移行している時期でしたので、農協の職員の方々に研修をしているところを見学させていただきました。

さすがに朝の8時半から夕方5時までというのは疲れました。実際に仕事をしたわけではありませんが、慣れない場所・慣れない事をしたので、その疲労も大きかったように思います。バイトとは違った疲れでした。残業があることも多いそうなので、大変だと感じました。

実習期間は一週間と、他の所へ行った人達よりは短かったのですが、普段見ることのできないものを見て、普段触れる事のできないものに触れる事ができ、とても貴重な体験をさせていただきました。また、職場の雰囲気を感じることが出来ました。そして働くことの大変さを改めて実感しました。ここで得た経験を生かして就職活動をしたいと思います。

〈実習先〉ツインバード工業株式会社

情報システム学科3年 坂井希代子

アサヒ旨茶の懸賞賞品であった温冷蔵庫をご存知ですか?きっと多くの人が「ほしい!」と思われたことでしょう。この製品を作ったのが、今回私が実習させていただいたツインバード工業なのです。

ツインバード工業は主に家電製品、アウトドア用品、健康機器等を製造し、金属表面処理等を事業としている会社で特に、家電製品に関しては個性の強いオリジナル商品をたくさん出している伸び盛りの企業です。

今回の実習にあたって、情報システム部の吉田さんは、事前にどんなことがやりたいか私達の希望を聞いてくださり、なるべくそれにそえるようにと、実習内容を組んでくださいました。私はツインバード工業のホームページを見た際にIT技術を駆使した社内コミュニケーションに大変興味を持ち、それについて学びたいと思いました。そこで吉田さんが考えてくださったのが、商品の企画から出荷されるまでの一連の流れの中で社内コミュニケーションがどのように活用されているかを知るための、情報システム部、商品開発部、物流センターでの実習でした。

このような多部門での実習はおそらく他では経験できず、ツインバード工業だからこそ体験できた非常に貴重なものだと思います。また、経営企画部の田村さんから、「このように実習内容を組んだけれど、一番大事なのはこの実習を通して、自分がやりたかったことでなくて、各部署で自分の関心を結び付け、やりたいことにつなげていくことです」とのお言葉をいただきました。このお話から、目的をもつことが大事であり、しかしそれだけにとらわれず、日々の業務、生活でも学習意欲をもって、幅広くいろいろな所に目をむけて過ごすことも大切であると学びました。そして自分の実習への考えが甘かったことをあらためて感じました。

知識や技術、社会人としての責任感等を学んだことももちろんですが、何より田村さんのように人生の先輩である会社の方々から貴重なお話を毎日のように聞くことができたことは本当に大きな収穫でした。

〈実習先〉新潟県庁

情報システム学科3年 熊田 智宏

インターンシップ先は新潟県庁情報政策課で、前半の一週間は電子県庁推進班、後半はIT推進係でそれぞれお世話になりました。

前半は主に県庁の内部向け申請書類様式の電子(データベース)化、後半は市町村・企業などを対象とした、IT推進に関するアンケートの集計とそのグラフ化という業務に携わりました。

電子県庁推進班では現在、2003年为目标として、電子的情報を紙と同様に扱う電子政府実現のために庁内LANの整備・強化を行っており、それに伴って平成15年を目処に本庁・出先を通じ、パソコンの一人一台配備の実現を目指しているのだそうです。

ただ、実現には億単位のお金が必要であり、長引く不況がその足を引っ張っているのが現状なのだそうです。

IT推進係は平成13年の4月に新設されたばかりですが、IT関係研究会の運営や、IT関連施策の総合調整といった自治体等の先頭に立って、IT化を進めていくのが主な業務で、前述のアンケートを元に、どれだけIT化が進んでいるのかや、システム整備の遅れている所はないか、遅れはどう補うかに重点を置いているようです。

今回、電子県庁化に関しては、お手伝いできたことは大してなかったのですが、県庁の中だけということでも、それを丸ごと一つのLANで繋いでしまおうというのは、想像以上に大変な労力を必要とするのだと感じました。

また、仕事が終わった後も、公務員試験についてのノウハウやより良い社会人としての心構えといった、学校にいただけでは聞けないような話を聞かせて頂きました。

特に課の皆さんが、「この仕事、トラブルはあの人に任せておけば大丈夫」と言われることに、大変な誇りを持って仕事をしてくれているということが最も印象深く、また、羨ましいと感じました。

現在、私は公務員を目指して勉強中ですが、お世話になった職員の方々のように自分の仕事に自信を持てる人間になりたいと思いました。

これからのNUIS公開講座のお知らせ

「パソコン教室」中級編

●ワード、エクセルを中心に行います。

期日:10月19・26日
11月2・9日の全4回(土曜) 13:00~16:00

定員:80人

テキスト代:2,000円

(市販のテキストを使用)

申し込み受付:10月7日(月)9:00~

大学239-3111へ



「IT社会の現状」

①「わかりやすい情報セキュリティ」

~セキュリティの必要性、ウィルス対策などをわかりやすく解説
期日:10月30日(水) 18:00~20:00

②「わかりやすい電子政府、電子自治体」

~電子政府の背景、日本の現状、諸外国の現状を解説
期日:11月6日(水) 18:00~20:00

いずれも

定員:80人 申し込み受付:10月15日(火)9:00~
大学239-3111へ

「情報システム特論」

本学では、情報システム学科3年次生以上を対象とした授業を一般の方にも広く公開いたします。

日 時: 土曜日(ほぼ隔週)の午前9時~午前10時30分

会 場: 新潟国際情報大学

テーマ: IT政策、IT技術、ITインバクト分野、ITサービス産業と人材

受講料: 無料

受講申込: 毎回開講日の週の月曜日まで

受講申込・問合せ窓口: 総務課広報係

TEL 025-239-3111 FAX 025-239-3690 E-mail somu@nuis.ac.jp

第1回 10月12日(土) [IT政策]

テーマ: 新潟県が進める情報政策

講 師: 新潟県総合政策部情報政策課長 中野雅至氏

第2回 10月26日(土) [IT技術]

テーマ: ブロードバンド&モバイル最新動向とシステムサプライヤの事業戦略

講 師: 日本電気(株)ニューITエバンジェリスト 林 雄代氏

第3回 11月09日(土) [ITインバクト分野(1)]

テーマ: e-ラーニングの最新動向

講 師: ウィルソン・ラーニング ワールドワイド(株)取締役 三浦邦夫氏

第4回 11月16日(土) [ITインバクト分野(2)]

テーマ: EC(電子商取引)の動向と県内事例

講 師: 新潟県商工会連合会指導部情報課長代理 辻川正敏氏

第5回 11月30日(土) [ITサービス産業と人材]

テーマ: ITサービス市場動向と期待する技術者像

講 師: NECソフト(株)執行役員常務 新潟支社長 宮崎 勉氏

◎詳細は募集要項でご確認下さい。

平成15年度 入学 試験概要 (要約一覧)

●入試に関する問い合わせ先
新潟国際情報大学学務課
〒950-2292
新潟市みずき野3丁目1番1号
電話(025)239-3111
FAX(025)239-3690

入 試 区 分		募 集 人 員		出 願 期 間	試 験 日	試験地	試験実施教科・科目	
推 薦	高校長推薦 指定校制	情報文化学科 情報システム学科	10 20	30	14.11.1(金)～ 14.11.11(月)	14.11.17(日)	新 潟	本学が指定校と定めた高校長あて推薦依頼を行います。
	高校長推薦 公募制	情報文化学科 情報システム学科	30 35	65				面接・小論文 学力推薦要件:全体の評定平均値4.0以上 又はいずれか1教科の評定平均値が4.2以上であること。
	高校長推薦 スポーツ	情報文化学科 情報システム学科	若干名					面接・小論文・基礎体力テスト
	特別選抜社会人	情報文化学科 情報システム学科	若干名					面接・小論文
一 般	前 期	情報文化学科 情報システム学科	35 60	95	15.1.7(火)～ 15.1.24(金)	15.2.3(月)	新 潟 上 越 東 京	・国語:国語Ⅰ・国語Ⅱ(いずれも古文・漢文を除く) ・数学:数学Ⅰ・数学Ⅱ(数学は、微分・積分を除く) ・外国語:英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択
		大学入試 センター試験	情報文化学科 情報システム学科	15 20	35			15.2.7(金)～ 15.2.17(月)
	後 期		情報文化学科 情報システム学科	10 15		25	15.2.24(月)～ 15.3.5(火)	15.3.10(月)

駐車場出入口変更のお知らせ

情報センター棟の増築に伴い、学生用駐車場の出入口が
9月21日(土)から図のように変更になります。注意して下さい。



教員の書籍出版

(2002年1月~9月現在)

安達 巧助教授

●監査人としての公認会計士の責任英米の先例に学ぶ対策第
三者責任明確化への方向性/安達巧著(雄松堂書店)単著
●ディスクロージャーとアカウンタビリティ/監査人としての
公認会計士の責任/安達巧著(創成社)単著
●企業再生の戦略/安達巧著(創成社)単著

安藤 潤講師

●日本経済の新たな進路実証分析による解明/諏訪貞夫教授
古希記念論文集刊行委員会編 文眞堂 分担保執筆

小林 元裕助教授

●中国の私営企業等の実態とその国内政治への影響評価(霞山
会)分担保執筆

佐々木 寛講師

●NPO/NGOと国際協力/西川潤、佐々木寛編著 著、(シ
リウス/NPO)ミネルヴァ書房 分担保執筆

紅翔祭

テーマ
次の扉を開けよう
新たな自分のために

10/19(土) ガガガSPライブ

15:00開場 16:00開演
場所 新潟国際情報大学体育館
一般でチケットをご希望の方は、当日お求め下さい。500円

両日のイベント

■キャンパスミーティング(討論会)
場所 大会議室
国際化と情報化の諸問題を討論する。
来場者も参加可能
新潟国際情報大学長も参加(19日のみ)

■その他

ESSによるスピーチコンテスト(20日午前)
軽音楽部によるライブイベント(20日)

模擬店
ゼミ発表
アームレスリング
W杯ボランティア報告
留学レポート
情報システム学科ゼミ報告
ロシア、中国、韓国料理もあるよ!!



おおさわ けいじ
PROFILE 大沢 啓二 プロ野球解説者
昭和7年3月14日 神奈川県藤沢市に生まれる
神奈川商工高校時代甲子園出場
昭和27年 立教大学に進学し、長島、杉浦と共に東京六大学で活躍
昭和31年 南海ホークス(現タイガース)に入団
東京オリオンズ(現ロッテ)のコーチ 二軍監督を歴任
昭和46年 ロッテ監督に就任
昭和51年 日本ハム監督に就任
昭和56年 日本ハム球団創立リーグ初優勝
昭和61年 日本ハム球団常務取締役就任
平成5年 日本ハム監督に復帰「球界の親分」として、プロ野球界を大いに盛り上げる
平成6年 シーズン終了後監督辞任
監督として半世紀のプロ野球歴史の中で700勝以上記録した人はわずか15名しかいない。戦績：725勝・723敗・99分け
現在、社団法人全国野球振興会理事長として活躍中
マスターズリーグ議長 TBS「サンデーモーニング(関口宏)レギュラー
平成5年 「新語・流行語大賞」大衆部門にて「親分」金賞受賞
「家庭教師が選ぶ家庭教師像」一位に選ばれる
平成6年 ゆうもあくら賞受賞
平成9年 和装文化賞受賞
平成10年 美しいキモノ、ベスト・ドレッサー賞受賞(女性部門 吉永小百合)
著書 球道無類(集英社)
ちまちま言うな上司!(青春出版社)
「人たらし」の管理術(徳間書店)
できるヤツの和忍団(双葉社)
OBたちの挑戦X(マガジンハウス)

今年度も10月19日、20日に紅翔祭が開催されます。今年度の学友会執行部・紅翔祭実行委員のメンバーは「紅翔祭を盛り上げる」という目標の下に集まりました。今年度の学友会委員は全員初心者で何をやるにもわからないことばかりです。出店者の募集の仕方や企業まわりなど様々なことに悪戦苦闘です。しかし、初心者のひらめきを重視し、今までの伝統を壊すことなく、新しいことに挑戦しています。

例えば、イベントステージ、露店の場所を今までの中庭から玄関前に移動します。これはより多くの人たちに紅翔祭を楽しんでもらうためです。また、本学初の試みとしてコンサートイベントを企画しました。紅翔祭を例年以上に盛り上げるためにまず考えついたことが「コンサートイベント」の開催でした。より多くの学生に喜んでもらえると思います。さらに、学長をはじめ、先生がたなどの意見交換、ふれあいの場としての討論会も企画しました。普段、なかなか聞くことのできない先生がたの考えを聞くことができると 생각합니다。これは、これからの大学生活において貴重な体験になるはずなので多くの学生に参加して欲しいと思います。

今年の紅翔祭のテーマは「次の扉を開けよう、新たな自分のために」です。これは、紅翔祭のテーマであると同時に私たち学生のテーマでもあります。毎年参加している学生はもろろんのこと、今まで紅翔祭に参加したことがない学生や、今年度入学してきた学生に紅翔祭を通して、新しい出会いを迎えたいと思っています。また、私たちは、学友会、紅翔祭の仕事を通して次のとびらを開け、新たな自分を見つけようとしています。次は、学生の皆さんが紅翔祭を通して、新たな自分を見つけてください。多くの学生が、紅翔祭に参加してくれることを願っています。

紅翔祭実行委員長
渡辺 隼一

10/20(日) 文化講演会

講師 大沢啓二氏
「人生のいろは」

14:30開場 15:00開演
場所 新潟国際情報大学体育館
参加無料。

但し、整理券が必要です。電話、ハガキ、E-mailにてお申し込みください。

申し込みメ切 10月10日(木)

※応募者多数の場合は抽選になります。

TEL 025-239-3111

はがきの場合

〒950-2292 新潟市みすき野3-1-1
「新潟国際情報大学 紅翔祭実行委員会 文化講演会 宛」

E-mailの場合

gakumu@nuis.ac.jp.
「紅翔祭実行委員会 文化講演」までご応募下さい。

卒業生の便り

本学を卒業して進学・就職した卒業生の近況報告です。当時をよく知る先生から思い出を語ってもらいました。お二人の今後の活躍をお祈りします。

大学で学んだこと

慶應義塾大学大学院博士課程(管理工学専攻) 三條 知美
(情報システム学科 平成10年卒)



私が新潟国際情報大学に入学したのは、1997年4月、大学にとっても期生という状況で大学生というものがスタートしました。大学に関しても右も左も分かりませんでしたし、アドバイスいただける先輩もいらっしゃらなかったのですが、今思うとそれが非常に貴重な経験だったと思います。授業も、始めのうちはシステム演習という科目があり、大学に入ってから初めてコンピュータに触った私は、とにかく面白く、ゲームのような感覚で授業を受けていました。逆に、コンピュータに触らない授業は面倒に思っていましたし、コンピュータの基礎理論のような授業は、初めて聞く言葉ばかりで、なにを言われているのかも解らない状態でした。

そんな私が大学院の進学を決めたのは、大学3年の冬でした。その頃にはだいぶコンピュータも使えるようになっていたのですが、さらにコンピュータと社会システムとの関係について知りたいとも思うようになっていました。また、4年生になり卒業論文に着手すると、自分の知らないことを自分自身で知識に変えて行くことに非常に興味を覚えるようになり、どうしても進学しようと思っていました。そこで、ゼミの先生や当時学部長をしておられた浦先生からも長年、教授を勤めておられた慶應義塾の大学院での研究や入試の様子などを細かくつかいが、目標とする大学院も決まりました。努力の結果、大学院に進学出来ることになりましたが、大学のシステム自体が異なり、授業も、その大学の1〜4年生で学んだ内容が前提になっているものが幾つか有るといった状況で、最初はとにかく戸惑うことばかりでした。

現在大学院に入ってから4年目になります。興味を持っている内容が変化した部分もありますが、知識を自分のものにしていくことが面白く、面白く感じる感覚だけは、大学の頃と変わりません。最近では、まだまださやかなものではあります。今まで自分がそのようにして時間を掛けて身に付けてきたものを、私と同じように知識を広げていきたいと思ふ人に、多少なりともアドバイスしてあげられたらと思っています。

さらなる飛躍を期待して

本学名誉教授・元情報文化学部学部長 浦 昭二

大学ではじめて二期生への就職説明会が開かれたころ、卒業後学問・技術をさらに深めたいと考えている学生に集まってもらったことがあります。20数名集まったかと思えますが、その中に三條さんがいました。卒業研究に取り掛かってから二層彼女の大学院進学の意志は強くなり、卒業指導の宗澤先生と相談して、彼女の希望に相応しいのは慶應の理工学研究科であると考え、いろいろアドバイスしてきました。それ以来、いろいろお節介りを続けてきた感じでした。

いまごろはあなたはスロバニアで開かれている国際会議で研究発表をしているのでしょうか。電子商取引に必要な情報技術について基礎的な研究をしているとのことですね。参加者の注目を浴びて相づき質問に首を上げています。では、これからNUIのたくさんの卒業生が、国際舞台で活躍することになるでしょう。みなさんの先頭に立つて大学の標榜する国際化・情報化の理想的な姿を描き、それに向かって一層の活躍をなされることを期待しています。

大学生活で得たもの

味の素システムテクノ(株) 内田 圭
(情報システム学科 平成14年卒)



私が新潟を離れてから、本当にあつという間に6ヶ月以上経ちました。湿っぽく、過ごし難い新潟の夏も終わり秋になりましたが、まだ大学での生活は、鮮明に記憶に残っています。

広島で生まれ、東京で小中高と過ごし、新潟とは大学に入学するまで全く縁がなかった自分にとって、新潟は非常に刺激的でした。広い新潟平野は開放的で、サイクリングやドライブをとて気持ちよくすることができ、のんびり休日を通ぐすのには最適です。長い砂浜は散歩道です。中国や韓国、ロシアからの漂流物を見ながら歩くのは結構楽しいです。また、新潟の市街に行けば色々な店が集結しているので、分散している東京に比べて便利ですね。休日は、ぶらぶら歩き回ったものです。

大学では、思い返せば、自分なりに充実した四年間を過ごせたと思います。元々、情報技術だけでなくその周辺の環境を学べる大学を探していたNUIを志望することにしたこともあり、選択は間違っていないと、予想を越える収穫もありました。企業から来られた先生方と、大学ですと教えてくれた先生方からバランスよく学ぶことができたことは、偏りの無い考え方を身に付けることができました。これらは、まだ始まったばかりの社会人としての生活ではありますが、非常に役にたっています。

私が、4年間大学で過ごす中でずっと基本方針として考えてきたことがあります。それは、大学とは自分がこれから何を学んで、どのように生きていくのかを選択するためのインテックスに過ぎないということです。例えば、大学ではコンピュータの技術で何をすることが出来るのか? NUIではそこまで学べるはず。問題は、その知識をどう応用して生かせるかということです。そのことは、社会に出てからの話ではありません。充実した学生生活にも大変重要なことでした。社会に出てからは、様々な情報インテックスとなります。

今、S/Eとしてシステムの開発業務に携わっています。お客様の要望の実現とコストや技術的な問題との関係に悩みながらも、やりがいを感じながらがんばっています。これからも、大学で学んだことを生かしてやっていきたいと思っています。

内田君との出会い

ゼミ担当教員・情報システム学科教授 宗澤 拓郎

内田君との出会いは入学早々の基礎演習だった。東京は国立から来ました。東京出身にしては新潟ボイナと言ったのが最初の印象。その後自分でE/MXの勉強をはじめ、同級の相羽、山賀君等と一緒にMMCに入部してきたのが第2の出会い。以来MMCの中心的存在として、E/MXをリードしてきた。庄巻は紅翔祭での名刺作り。自らソフト、システムを作り上げ、立派に部の資金稼ぎに貢献し今だに続いている。また酒の強さは天下二品、バンホテルでのキャンフ旅行ではその酒豪振りを大に発揮したとか。入社試験でのPCによる自己PRは今でも語り草。とにかく新潟生活、NUI生活の4年間をおいに楽しんできた東京人であった。

湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて

広報委員長 正田 達夫

本学の特長のひとつとして国際化を体験できることがある。情報文化学科では、中国、アメリカ、韓国、ロシア、そして情報システム学科ではカナダに留学生を派遣している。

筆者は、今年の八月から九月までカナダ研修に随行した。この研修の目的は、英語を現地で密度濃く学ぶこととIT先進国である北米のIT事情を学ぶことにある。

英語については、木曜日を除く毎日午前中、八一九人の小クラスで実践的な授業がある。前日にあったこと見たことを話す。英語の表現にも丁寧な間接話法のあることなども学ぶ。

午後にはカンパセーションクラブと称して数人の現地学生が、グループごとに街を見物しながら会話を学ぶ。留学したエドモントンには巨大な商店街(モール)があり、買い物英語の実践的教育になる。

研修の後半3週間はホームステイし、カナダ人と家庭生活について直接会話を交わす。

北米のIT事情については、アルバータ大学のウェブマスターが最新のウェブ制作技法を実例を示して解説し、また簡単な実習を行う。また、午後には地元IT関連企業を訪問し、ITの実態を見学する。

学生たちによる日記が、大学のホームページに掲載されており、厳しいことも書かれているが、大半の学生は、カナダを通して「世界」を体験したようである。これは、ホームステイでお世話になったご家庭には、中国人、ベトナム人、インド人もおり、モールの並ぶ食品にはこれらの国の料理が種々並べられており、国際化を身をもって体験できたようである。